

プログラム

招待講演

日 時：5月13日(金) 15:00～15:30

会 場：A会場

座 長：石田 均(杏林大学医学部)、矢ヶ崎 一三(東京農工大学)

講演1 「Health benefit effects of Doenjang, Korean traditional fermented food, as a functional food」

演 者:Hong Soo Ryu (President of Korean Society of Food Science and Nutrition (KFN))

講演2 「Effect of Citronellol and the Chinese Medical Herb Complex on Cellular Immunity of Cancer Patients Receiving Chemotherapy/Radiotherapy」

演 者：Chin-Kun Wang (President of Nutritional Society of Taiwan (NST))

特別講演

特別講演-1：「新時代の栄養学」

日 時：5月13日(金) 15:30～16:30

会 場：A会場

演 者：板倉 弘重(茨城キリスト教大学名誉教授)

座 長：近藤 和雄(お茶の水女子大学大学院)

特別講演-2：「統合食品機能学 ―その分子論的基盤と将来展望」

日 時：5月13日(金) 16:30～17:30

会 場：A会場

演 者：阿部 啓子(東京大学大学院)

座 長：大塚 譲(お茶の水女子大学大学院)

特別講演-3：「医学からみた栄養学」

日 時：5月14日(土) 10:30～11:30

会 場：A会場

演 者：寺本 民生(帝京大学医学部)

座 長：石川 俊次(神奈川工科大学)

特別講演-4：「栄養学からみた医学」

日 時：5月15日(日) 10:30～11:30

会 場：A会場

演 者：中村 丁次(神奈川県立保健福祉大学)

座 長：橋詰 直孝(和洋女子大学)

教育講演

教育講演-1：「機能性食品の現状および課題」

日 時：5月14日(土) 10:30～11:30

会 場：P会場

演 者：辻 英明(岡山県立大学)

座 長：海老原 清(愛媛大学)

教育講演-2：「血圧管理とナトリウム、カリウム、アルコール」

日時：5月14日(土) 13:30～14:30

会 場：A会場

演 者：久代 登志男(日本大学医学部)

座 長：田中 明(女子栄養大学)

教育講演-3：「生命のスーパーシステムと生存—生物進化から生老病死を診る—」

日 時：5月14日(土) 13:30～14:30

会 場：P会場

演 者：井上 正康(大阪市立大学大学院医学研究科)

座 長：清水 誠(東京大学大学院)

教育講演-4：「糖尿病性腎症における低蛋白食の治療学的意義」

日 時：5月15日(日) 10:30～11:30

会 場：F会場

演 者：宇都宮 一典(東京慈恵会医科大学)

座 長：合田 敏尚(静岡県立大学)

教育講演-5：「おいしさを数式であらわす」

日 時：5月15日(日) 10:30～11:30

会 場：P会場

演 者：伏木 亨(京都大学大学院)

座 長：小川 正(関西福祉科学大学)

シンポジウム

International シンポジウム：「Topics on Nutrition and Food Science in Human Health」

日 時：5月14日(土) 8:30～11:30

会 場：F会場

座 長：宮澤 陽夫(東北大学大学院)、柳田 晃良(佐賀大学)

- 1 Jin H. Song (Medical University of South Carolina)
Mechanism-driven cancer chemoprevention and treatment strategy using botanical compounds
- 2 Toshimasa Yamauchi (Graduate school of Medicine, University of Tokyo)
Physiological and pathophysiological roles of adiponectin and its receptors
- 3 Shaikh M. Rahman (University of Colorado Denver)
CCAAT/enhancer binding protein beta (C/EBP β) plays an essential role in the pathogenic mechanisms underlying hepatic steatosis, ER stress, and inflammation

シンポジウム-1：「肥満の基礎と臨床への展開」

日 時：5月14日(土) 8:30～10:30

会 場：A会場

座 長：河田 照雄(京都大学大学院)、寺尾 純二(徳島大学大学院)

- 1 永尾 晃治(佐賀大学)
食事脂質による肥満誘発性病態の予防・改善
- 2 津田 孝範(中部大学)
植物由来成分と脂肪細胞機能調節、糖尿病予防
- 3 亀井 康富(東京医科歯科大学)
骨格筋における遺伝子発現制御と肥満・生活習慣病
- 4 武城 英明(千葉大学大学院)
脂肪細胞移植の基礎と臨床応用

シンポジウム-2：「微量栄養素と生体機能との相互作用」

日 時：5月14日(土) 8:30～10:30

会 場：P会場

座 長：鈴木 和春(東京農業大学)、鈴木 恵美子(お茶の水女子大学大学院)

- 1 石神 昭人(東京都健康長寿医療センター研究所)
ビタミンCの体内動態とその抗酸化能力
- 2 駒井 三千夫(東北大学大学院)
ビオチンの抗メタボリックシンドローム機能
- 3 松崎 広志(東京農業大学)
投与リン酸塩の違いによる腎機能・骨代謝の変動
- 4 吉田 宗弘(関西大学)
ミネラルと微量元素の生体利用に及ぼす食事中共存成分の影響

シンポジウム-3:「ライフステージに応じた食育の在り方」

日 時:5月14日(土) 8:30~10:30

会 場:R会場

座 長:岡崎 光子(女子栄養大学)、早瀬 仁美(福岡女子大学大学院)

- 1 福岡 秀興(早稲田大学)
小児の健康から妊娠期の食育を考える —葉酸摂取を中心に—
- 2 鳥居 邦夫(味の素株式会社イノベーション研究所)
嗜好性は消化管からの食情報の認知により形成される
- 3 上西 一弘(女子栄養大学)
10代の子供への食育の在り方 —カルシウム摂取を中心に—
- 4 林 静子(湘南ホスピタル栄養科)
高齢期への食育の在り方 —一口から食べることの重要性—

シンポジウム-4:「食べ物の“こく”とは —一味と香りからおいしさを科学する—」

日 時:5月14日(土) 14:30~17:00

会 場:P会場

座 長:久保田 紀久枝(お茶の水女子大学大学院)、西村 敏英(日本獣医生命科学大学)

- 1 西村 敏英(日本獣医生命科学大学)
食べ物の“こく”とその発現因子について
- 2 宮村 直宏(味の素株式会社食品研究所)
コク味素材の呈味・風味形成への影響
- 3 木田 隆生(キリン協和フーズ株式会社食品開発研究所)
メイラードペプチドの“こく”付与効果について
- 4 黒林 淑子(長谷川香料株式会社 技術研究所)
においと味のコラボレーションによる風味形成 —セロリを例に—

シンポジウム-5:「医農連携によるアミノ酸の生理機能研究の新展開」

日 時:5月14日(土) 14:30~17:00

会 場:R会場

座 長:下村 吉治(名古屋大学大学院)、加藤 久典(東京大学)

- 1 小川 拓哉(奈良先端科学技術大学院大学)
細胞外セリンを介した新たな破骨細胞分化制御機構
- 2 深柄 和彦(東京大学病院)
グルタミン・アルギニンはどのような病態で合併症予防に効果を発揮するのか?
—マウスによる基礎的検討—
- 3 吉澤 史昭(宇都宮大学)
生体調節因子として新たに注目される分岐鎖アミノ酸
- 4 遠藤 文夫(熊本大学大学院)
アミノ酸先天性代謝異常症の最近の進展

シンポジウム-6:「脂質代謝研究の今日的话题」

日 時: 5月15日(日) 8:30~10:30

会 場: A会場

座 長: 池田 郁男(東北大学大学院)、吉田 博(東京慈恵会医科大学)

- 1 長田 恭一(明治大学)
酸化コレステロールの生体有害性とその有害性を低減する食品成分と薬剤
- 2 佐藤 匡央(九州大学大学院)
ラットにおける連鎖解析法を用いた新規コレステロール代謝遺伝子の探索
- 3 佐藤 隆一郎(東京大学大学院)
LDL 受容体発現調節の仕組み
- 4 池田 郁男(東北大学大学院)
動物試験における遺伝子解析や酵素活性測定で脂質代謝制御は明らかにできるのか?
—絶食や pair-feeding に伴うさらなる混乱—

シンポジウム-7:「日本人における疾患の予防・治療と栄養疫学のエビデンス」

日 時: 5月15日(日) 8:30~10:30

会 場: F会場

座 長: 曾根 博仁(筑波大学大学院)、田中 司朗(京都大学医学部)

- 1 吉池 信男(青森県立保健大学)
日本人の疾病リスクと栄養状態をモニタリングする国民健康・栄養調査の意義
- 2 井上 真奈美((独)国立がん研究センター)
日本人におけるがんと食事・栄養のエビデンス-多目的コホート研究の成果から
- 3 吉村 幸雄(四国大学)
日本人2型糖尿病患者の栄養調査結果
—Japan Diabetes Complications Study (JDACS)の結果より
- 4 小久保 喜弘(国立循環器病研究センター)
循環器病予防に関する食事・栄養のエビデンス-我が国のコホート研究から

シンポジウム-8:「ロコモティブシンドロームと栄養」

日 時: 5月15日(日) 8:30~10:30

会 場: P会場

座 長: 田中 清(京都女子大学)、上西 一弘(女子栄養大学)

- 1 武田 英二(徳島大学大学院)
食事リン摂取と骨健康および QOL
- 2 津川 尚子(神戸薬科大学)
骨粗鬆症・骨折予防におけるビタミン D ならびにビタミン K 栄養の重要性
~新規栄養評価法の開発と応用~
- 3 井上 聡(東京大学大学院医学系研究科)
ビタミン K の新しい作用メカニズムと骨における役割
- 4 田中 清(京都女子大学)
栄養療法の臨床的・社会的意義

シンポジウム-9：「食品の安全を支える科学-農場から食卓まで-」

日 時：5月15日(日) 8：30～10：30

会 場：R会場

座 長：村田 容常(お茶の水女子大学大学院)、川本 伸一((独)食品総合研究所)

- 1 奥語 靖洋((独)農業環境技術研究所)
農薬や POPs の作物残留とリスク低減技術
- 2 吉田 充((独)食品総合研究所)
調理・加工過程で食品中に生じる有害物質
- 3 竹内 正義(金沢医科大学)
生活習慣病における Toxic AGEs (TAGE)-RAGE 病因説と食事性 AGEs のクロストーク
- 4 藤井 建夫(東京家政大学)
減塩食品の食中毒の危険性—なぜ塩辛で食中毒が起きたのか

シンポジウム-10：「炎症と栄養の接点を探る」

日 時：5月15日(日) 14：00～16：30

会 場：F会場

座 長：佐藤 和人(日本女子大学)、松田 幹(名古屋大学大学院)

- 1 原 博(北海道大学大学院)
栄養生理の視点から見た炎症
- 2 薩 秀夫(東京大学大学院)
腸管における炎症と栄養・食品
- 3 西村 智(東京大学大学院医学系研究科)
生体分子イメージングによる生活習慣病病態の解析：
慢性炎症を背景とする実質と間質の相互作用
- 4 立花 宏文(九州大学大学院)
機能性食品の創製と炎症の制御

シンポジウム-11：「消費者にわかりやすい栄養表示」

日 時：5月15日(日) 14：00～16：30

会 場：R会場

座 長：山田 和彦(女子栄養大学)、梅垣 敬三((独)国立健康・栄養研究所)

- 1 池上 幸江(大妻女子大学名誉教授)
消費者の視点からの栄養表示
- 2 田中 文代(カルビー株式会社 品質保証部)
生産者の視点からの栄養成分表示
- 3 清水 俊雄(名古屋文理大学)
国際的な視点からの栄養表示
- 4 芳賀 めぐみ(消費者庁 食品表示課)
栄養表示の現状と課題

シンポジウム(緊急企画):「Emergency Nutrition

— 災害時における栄養・食糧問題とその対策を考える」

日 時: 5月14日(土) 14:30~17:30

会 場: A会場

座 長: 板倉 弘重(茨城キリスト教大学名誉教授)、渡邊 昌((社)生命科学振興会 理事長)

- 1 岸 恭一(名古屋学芸大学)
災害時に注意すべき『たんぱく質』不足の問題と対策
- 2 柴田 克己(滋賀県立大学)
災害時に注意すべき『ビタミン』不足の問題と対策
- 3 福岡 秀興(早稲田大学)
災害時に注意すべき『ミネラル』不足の問題と対策
- 4 須藤 紀子(国立保健医療科学院)
災害時における栄養・食生活支援のあり方
- 5 澤田 勝寛(新須磨病院 院長)
災害時における医療の現場から学んだ事、伝えたい事
- 6 総合討論

ジョイントシンポジウム

IUFoST-Japan シンポジウム:「機能性食品の新展開」

日 時: 5月15日(日) 13:30~16:30

会 場: P会場

座 長: 田島 眞(実践女子大学)

- 1 清水 誠(東京大学大学院)
腸管機能を調節する食品の新たな可能性を探る
- 2 加藤 久典(東京大学)
網羅的解析技術による食品の機能性研究の現状
- 3 寺尾 純二(徳島大学大学院)
フラボノイドパラドックス —代謝変換から機能性を考える—
- 4 田島 眞(実践女子大学)
特定保健用食品の表示許可制度の見直しについて

サテライトシンポジウム

ネスレ栄養科学会議：「栄養とエピジェネティクス」

日 時：5月14日(土) 14:30～17:00

会 場：F会場

講演1：加藤 茂明(東京大学)

栄養素に応答するエピゲノム制御の分子機構

座 長：阿部 啓子(ネスレ栄養科学会議理事長)

講演2：亀井 康富(東京医科歯科大学)

生活習慣病とDNAメチル化

座 長：ファブリチオ アリゴニ(ネスレ栄養科学会議理事)

講演3：中尾 光善(熊本大学)

エピジェネティクス機構による細胞制御と病態

座 長：小川 佳宏(ネスレ栄養科学会議理事)

ランチョンセミナー

ランチョンセミナー1：「新しい視点からタマゴを斬る」

日 時：5月14日(土) 12:00～13:00

会 場：A会場

座 長：柳田 晃良(佐賀大学)

演 者：菅野 道廣(九州大学・熊本県立大学名誉教授)

共 催：キューピー株式会社

ランチョンセミナー2：「水分補給：健康的なライフスタイルのために」

日 時：5月14日(土) 12:00～13:00

会 場：F会場

座 長：芳田 哲也(京都工芸繊維大学大学院)

講演1：ローレントレベレゴ(ダノンリサーチセンター)

健康的な水分補給に改善するための水分摂取パターンへの理解

講演2：森谷 敏夫(京都大学大学院)

水分補給を習慣づけるために：日本における水分補給と健康に関わる新たな知見

共 催：ダノンウォーターズオブジャパン株式会社

ランチョンセミナー3：「メタボローム解析技術の進歩と食品への適用 ～網羅的解析による新たな食品研究の可能性～」

日 時：5月14日(土) 12:00～13:00

会 場：M会場

座 長：五十嵐 喜治(山形大学)

演 者：及川 彰(理化学研究所植物科学研究センターメタボローム基盤研究グループ)

共 催：アジレント・テクノロジー株式会社

ランチョンセミナー4：「口腔消化管味覚センサーの感受性制御機構とその食調節における役割」

日 時：5月14日(土) 12:00～13:00

会 場：N会場

座 長：久保田 紀久枝(お茶の水女子大学大学院)

演 者：二ノ宮 裕三(九州大学大学院)

共 催：味の素株式会社

ランチョンセミナー5：「脂肪酸栄養について—小児からのメタボリックシンドロームを中心に—」

日 時：5月14日(土) 12:00～13:00

会 場：P会場

座 長：大塚 譲(お茶の水女子大学大学院)

演 者：岡田 知雄(日本大学医学部)

共 催：株式会社クリニコ・森永乳業株式会社

ランチョンセミナー6：「カシスアントシアニンの新たな機能」

日 時：5月14日(土) 12:00～13:00

会 場：Q会場

座 長：芦田 均(神戸大学大学院)

演 者：一柳 孝司(新潟工科大学)

大黒 浩(札幌医科大学)

共催：株式会社 明治

ランチョンセミナー7：「コレステロール吸収の機構と食品成分による抑制」

日 時：5月14日(土) 12:00～13:00

会 場：R会場

座 長：山田 耕路(九州大学大学院)

演 者：池田 郁男(東北大学大学院)

共 催：株式会社伊藤園

ランチョンセミナー8：「油脂栄養の最近の話題 ～中鎖脂肪酸の機能を中心に～」

日 時：5月15日(日) 12:00～13:00

会 場：A会場

座 長：菅野 道廣(九州大学・熊本県立大学名誉教授)

演 者：青山 敏明(日清オイリオグループ株式会社)

共 催：日清オイリオグループ株式会社

ランチョンセミナー9：「新たな冠動脈疾患リスク因子としての血中脂肪酸バランス(EPA/AA比)」

日 時：5月15日(日) 12:00～13:00

会 場：F会場

座 長：津田 謹輔(京都大学大学院)

演 者：板倉 弘重(茨城キリスト教大学名誉教授)

共 催：持田製薬株式会社

ランチョンセミナー10：「**肝臓のメタボリックシンドローム：
脂肪肝の病態とアスタキサンチンによる進展予防の可能性**」

日 時：5月15日(日) 12:00～13:00
会 場：N会場
座 長：石田 均(杏林大学医学部)
演 者：太田 嗣人(金沢大学 フロンティアサイエンス機構)
共 催：富士化学工業株式会社

ランチョンセミナー11：「**水分補給のサイエンス**」

日 時：5月15日(日) 12:00～13:00
会 場：Q会場
座 長：鈴木 和春(東京農業大学)
演 者：鷹股 亮(奈良女子大学)
共 催：日本コカ・コーラ株式会社

ランチョンセミナー12：「**肥満と癌を防ぐグッド・ダイエット**」

日 時：5月15日(日) 12:00～13:00
会 場：R会場
座 長：宮澤 陽夫(東北大学大学院)
演 者：前田 和久(大阪大学大学院医学研究科)
共 催：株式会社アミノアップ化学

関連学術集会のご案内

1 第19回スポーツ栄養学研究会

日 時：5月14日(土) 18:00～20:30
会 場：I会場
内 容：運動の体内代謝改善効果 —メカニズムとエビデンスをめぐる最新情報—
講演1：江崎 治((独)国立健康・栄養研究所)
運動による体脂肪減少効果の機序と人でのエビデンス
講演2：川中 健太郎(新潟医療福祉大学)
異なるタイプの運動が骨格筋糖代謝に及ぼす影響
代表世話人：小林 修平
連絡先：川野 因(東京農業大学・栄養科学科)
TEL&FAX：03-5477-2453
E-mail：y1kawano@nodai.ac.jp

2 第10回 Hindgut Club Japan サテライトミーティング

日 時：5月14日(土) 18:00～20:30

会 場：J会場

内 容：腸管水吸収の未来を探る

講演1：村松 博士(清田病院)

半固形化栄養材がもつ下痢改善効果のメカニズムと介護における有用性

講演2：高橋 徹(福岡女子大学)

腸管運動と水吸収

主 催：Hindgut Club Japan

代表者：牛田 一成(京都府立大学)

コンビーナー：高橋 徹(福岡女子大学)

連絡先：塚原 隆充

Hindgut Club Japan 事務局(株式会社 栄養・病理学研究所内)

Tel: 0774-99-7331 FAX: 0774-99-7332

E-mail: tsukahara.hindgut-club@kyoto-inp.cc

3 第5回カルノシン・アンセリン研究会

日 時：5月14日(土) 18:00～20:30

会 場：K会場

内 容：機能性ペプチド「カルノシン・アンセリン」に関する研究発表および研究講演

講演1：川原 正博(九州保福祉大学)

脳血管性認知症およびプリオン病予防・治療薬シーズとしてのカルノシン

講演2：清水 誠(東京大学大学院)

カルノシンと腸管吸収

代表者：西村 敏英(日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 教授)

日本獣医生命科学大学食品機能化学教室

TEL: 042-251-6121 FAX: 042-251-9984

参加費：無料、多数のご参加をお待ち致しております。

4 国際栄養を考える会

日 時：5月14日(土) 18:00～20:30

会 場：L会場

内 容：国際協力場において管理栄養士に求められていることを整理し、何ができるのかについて考えます。また、参加者が相互に意見を述べ合い、今後の“国際栄養”活動について検討することをねらいとしています。

講演1：開発途上国における日本人管理栄養士の活動事例報告

講演2：事例報告をふまえた討論

代表者名：草間 かおる¹⁾⁴⁾、野末 みほ²⁾⁴⁾、石川 みどり³⁾⁴⁾

1) 山口県立大学 2) 独立行政法人国立健康・栄養研究所 3) 名寄市立大学

4) 青年海外協力隊栄養士ネットワーク

連絡先：草間 かおる(山口県立大学 看護栄養学部 栄養学科)

TEL: 083-928-2414 FAX: 083-928-2251

E-mail: kusama@yamaguchi-pu.ac.jp

5 栄養学若手研究者の集い

日 時：5月14日(土) 18:00～20:30

会 場：N会場

内 容：日本食品標準成分表2010 ―改訂のポイントと活用への提案―

講演者：渡邊 智子(千葉県立保健医療大学健康科学部栄養学科教授)

連絡先：勝間田 真一(東京農業大学 応用生物科学部 栄養科学科)

TEL：03-5477-2444 FAX：03-5477-2658

E-mail：s1katsum@nodai.ac.jp

6 第44回 油脂・コレステロール研究会

日 時：5月14日(土) 18:00～20:30

会 場：O会場

講演 1：五十嵐 美樹(カリフォルニア大学アーバイン校生物科学部 研究員)

栄養および肝臓多価不飽和脂肪酸合成能と脳機能の関係

講演 2：及川 真一(日本医科大学 内分泌代謝内科 教授)

コレステロールと脂質異常症：その最新知見

代表者名：油脂・コレステロール研究会 会長 宮澤 陽夫(東北大学)

連絡先：油脂・コレステロール研究会 庶務 仲川 清隆(東北大学)

TEL：022-717-8906

E-mail：nkgw@biochem.tohoku.ac.jp

参加費：無料、油脂・コレステロール研究会の非会員の方も歓迎

7 食品成分表に記載された新規ビタミン・ミネラルの活用

日 時：5月14日(土) 18:00～20:30

会 場：H会場

内 容：栄養計算の基となる「五訂増補版 日本食品標準成分表」が5年ぶりに改訂され、「日本食品標準成分表2010」が公表された。本改訂においては「アミノ酸組成によるたんぱく質」および「トリアシルグリセロール当量」の新たな算定に加え、厚生労働省が策定している「日本人の食事摂取基準」に基準値が設定されているが、五訂増補成分表に記載のない無機質のヨウ素、セレン、クロム、モリブデン及びビタミンのピオチンの分析と成分値が記載された。そこで、これらの5種類の微量栄養素の基礎と利用について考えたい。

はじめに : 西牟田 守(千葉県立保健医療大学健康科学部)

クロム : 千葉 百子(国際医療福祉大学薬学部)

モリブデン、セレン : 吉田 宗弘(関西大学化学生命工学部)

ヨウ素 : 村松 康行(学習院大学理学部)

ピオチン : 木岡 未央、渡邊 敏明(兵庫県立大学環境人間学部)

代表者名：渡邊 敏明、西牟田 守

連絡先：兵庫県立大学環境人間学部食環境解析学教室

TEL/FAX：079-292-9325

E-mail：watanabe@shse.u-hyogo.ac.jp

8 特定保健用食品の科学的特性

日 時：5月14日(土) 18:00～20:30

会 場：M会場

内 容：特定保健用食品は、科学的根拠を持つ健康食品として、効能の健康強調表示を許認可された食品群であるが、消費者による効能非確認率はきわめて高い。このような科学的根拠と効能発現率の乖離現象発生の背景に、科学的根拠のデータと、その実験条件と類似した条件下でえられる生活科学的根拠のデータの不一致、効能不支持データの非公表や無視、消費者に対する宣伝の科学性の不足と、そして消費者のトクホマークと宣伝に対する盲信などがあると思われる。

これは、特定保健用食品の命である科学的根拠なるものが、限定的な条件下で得られた“実験的根拠”にすぎないものを、普遍性と確実性と一体化して捉えられるような“科学的”なる華美な用語を当てはめたことに問題の根源があると思われる。

科学的根拠を持たないインチキ健康食品を撲滅するために、科学的根拠を持つ清く正しい健康食品として社会に提供し、健康づくりに貢献するのが特定保健用食品であると公的に説明されてきた。したがって、特定保健用食品は開発・効能確認、許認可、宣伝販売、効果発現にいたるまで科学性で貫かれた健康強調表示許認可制度の下に、消費者に購買・消費させる責任を果たすべきではないか？

このような考えの下に、特定保健用食品開発〈企業、研究機関など〉、効能研究、許認可審査、宣伝などの担当者、栄養士、一般教育研究者、そして報道・放送・出版関係者など、各分野の方々に会していただき、特定保健用食品の“科学性”に焦点を当てて意見交換し、より合理的な食と健康環境の整備に資したい。

代表者：鈴木 正成（早稲田大学スポーツ科学研究センター）

連絡先：鈴木 正成

TEL：03-3472-0121 FAX：090-3244-1600

E-mail：szkdumbbell@ctss.itsudemo.net

市民公開講座（協催：ネスレ日本株式会社）

「栄養・肌・健康～コーヒーポリフェノールの可能性～」

日 時：平成23年5月15日(日) 14:00～16:30

会 場：A会場

座 長：石川 俊次（神奈川工科大学）、中村 丁次（神奈川県立保健福祉大学）

- 1 近藤 和雄（お茶の水女子大学大学院）
ポリフェノールと健康
- 2 古野 純典（九州大学大学院）
コーヒーと生活習慣
- 3 上出 良一（東京慈恵会医科大学）
肌の健康・コーヒーポリフェノールの可能性